

財務状況把握の結果概要（簡略版）

北海道財務局作成

（対象年度：令和3年度）

白老町

総合評価

債務償還能力

〔地方債等の債務の大きさと、その償還原資を確保する能力〕

資金繰り状況

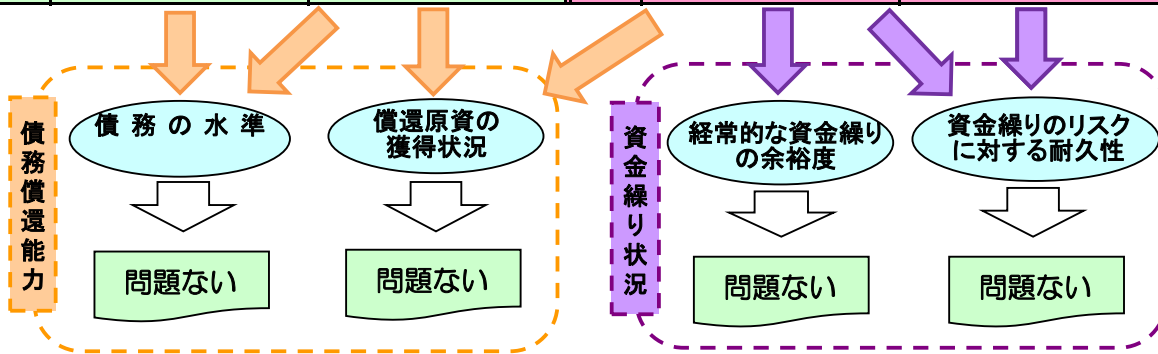
〔経常的な収支と積立金等の備えからの資金余裕状況〕

留意すべき状況にはない

留意すべき状況にはない

4つの財務指標結果

指標	① 実質債務月収倍率	② 債務償還可能年数	指標	③ 行政経常収支率	④ 積立金等月収倍率
	$\left(\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}\right)$ ※一月当たり収入の何ヶ月分の債務があるかを見る指標	$\left(\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}\right)$ ※一年間で生み出される償還原資の何倍の債務を抱えているかを見る指標		$\left(\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}\right)$ ※収入からどの程度の償還原資を生み出しているかを見る指標	$\left(\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}\right)$ ※一月当たり収入の何ヶ月分の積立金があるかを見る指標
注意	24.0月		問題なし	14.5%	3.4月
やや注意	18.0月	15.0年	やや注意	10.0%	3.0月
問題なし	6.6月	3.7年	注意	0.0%	1.0月



今後の見通しと留意点等

○今後の財政運営について

・貴町は、診断基準年度である令和3年度において、当局の4指標のいずれも診断基準に抵触しておらず、債務償還能力及び資金繰り状況について留意すべき状況にはないと判断される。

・過去の積極的な社会資本整備に伴う起債増や基金取崩の結果として、実質債務月収倍率は平成26年度まで、積立金等月収倍率は平成28年度まで、当局の診断基準に抵触する状況であったものの、「白老町新財政改革プログラム」や「白老町財政健全化プラン」に基づき、行財政基盤の強化に努めてきた結果、両指標は平成25年度以降上昇傾向で推移し、平成29年度以降は当局の診断基準に抵触しない水準まで改善した。

・一方で、令和2年度の両指標は依然として類似団体平均を下回っており、また実質債務月収倍率については計画最終年度（令和10年度）において上昇が見込まれている。今後は庁舎建替えに伴う基金残高の減少も見込まれるため、引き続き「白老町行財政改革推進計画」を着実に履行し持続可能な財政の維持を期待したい。

○病院事業会計及び下水道事業会計への繰出金について

・貴町の病院事業会計及び下水道事業会計への繰出金は、類似団体と比較して劣位にあり、一般会計へ大きな影響を与えているものと考えられる。貴町としても、特に病院事業については病床の減少及び地域包括ケア病床への転換を骨子として医業収益の改善と一般会計からの繰出しの減少を目指しており、下水道事業についても、令和2年度が既往起債償還額のピークであったことから、令和3年度以降の繰出しは減少する見通しとしている。

・一方で、昨今の労務単価や資材価格の高騰による建設費及び維持補修費の上昇なども懸念されるため、諸計画の着実な実施により、独立採算の原則に基づく持続可能な公営企業の確立を期待したい。